

嘉手納スペシャルオリンピックス 「ボウリング競技会」開催

第18航空団広報局

KSO

Bowling!

(写真全て、米空軍：ジェイソン・エドワーズ一等軍曹撮影)



今年も、沢山の笑顔と声援の中、嘉手納スペシャルオリンピックス、ボウリング競技会が北谷町シーサイドボウル美浜で9月18日に行なわれました。

大会当日は、台風の影響で強風が吹く中、次々に意気揚々としたアスリート達が会場に現れ、競技に臨みました。第18航空団司令官ウィルズバック准将の挨拶で始まったボウリング競技会は、すぐにもその声援で会場をいっぱいにし、大変な盛り上がりを見せました。大会はそれぞれのレーンで3名から4名に分かれ、第一部と第二部に分かれて開催され、各レーンで、熱い入賞争いが繰り広げられました。銀メダルを手にしたアスリートの一人は「この大会の為にずっと練習を重ねて来たんだ。メダルがもらえてとっても嬉しいよ!」と話してくれました。今年はおよそ150名のアスリートが参加、また90名のアメリカ人及び日本人通訳ボランティアが介添えや、応援団としてアスリートを支え



ました。嘉手納外語塾の塾生らもボランティアとして参加し受付業務に従事してくれました。嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会のメンバーは、大会準備の為に今年の4月から準備にとりかかり、7月の申し込みを経て、毎年行なわれるボウリング大会を今年も成功に導きました。「また来年会おうね!」そう口々にしてアスリート達はメダルを胸に会場を去っていきました。



嘉手納スペシャルオリンピックスの本大会は、11月6日(土曜日)嘉手納基地にて開催されます。既に申し込みも終わり、県内特別支援学校、嘉手納基地近隣福祉作業所等からおよそ840名のアスリートがエントリーしています。

Part I

Page 1... KSOボウリング・ゲーム

Page 2... トップ3メンバー、日用品を寄贈

Page 3... 嘉手納外語塾生、職場体験研修記

Part II

Page 4... 地元地域パートナーとの交流

Page 5... 米空軍創設記念祝賀会

Page 6... 傷痍軍人会、嘉手納基地を訪問

トップ3メンバー、北谷町社会福祉協議会へ日用品を寄贈

第18航空団広報局

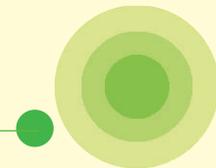


(米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)

9月17日、嘉手納基地の「TOP 3 (トップ・スリー)」のボランティアメンバーによるトラック1台分の日用品や缶詰などが北谷町社会福祉協議会へ寄贈されました。「トップ3」とは、下士官の上級曹長、前任曹長、曹長のメンバーで構成されるグループで、階級として下士官の上から3階級(トップ3)の隊員で、下士官の幹部クラスの集まりです。寄贈品の調整を行ったトップ3のジョン・ベル曹長は、今回、基地内で寄贈品提供の呼びかけをしたところ、200名の基地内のボランティアから支援を受け、寄贈品(約1トン超)を集めることができたことと説明しました。寄贈品は、洗濯洗剤、食器用洗剤、シャンプー、トイレトペーパー等の日用品や、パスタソース、お米、スラムなどの食料品です。北谷町内に在住する困窮世帯のために、社会福祉協議会を通して寄贈しました。同社会福祉協議会の中村光幸会長は「こちらで保管していた食料品なども少なくなってきたところで、今回こんなに大量の寄贈品を受け取ることができ有難く思います」と感想を述べました。北谷町内には11区あり、各区で経済的に援助を必要とする世帯を調査し、これから年末にかけ社会福祉協議会から、およそ100世帯(約200名)へ歳末援助としての支援金と一緒に、今回の寄贈品も配られる予定です。ベル曹長は「地元の方々と関わっていくためには、私達からきっかけを作ることが大切だと思っています。嘉手納基地と地元の皆さんと良い関係、より良い生活環境を作っていくことができればと願っています。ボランティアで参加した若い隊員にとっても、いい経験ができました」と双方にとって良い結果になった事を喜びました。

From KADENA TOP 3





これからの目標
一年 八番 仲宗根 望
(なかそね のぞみ)

私はカデナ基地広報局渉外部で三日間の職場体験研修を行いました。研修に行く前に私は、出来る限り、英会話の聴きとりを頑張ろうと決意し、体験に臨みました。

初日目は米軍幹部を始め、住民代表など基地との関わりを持った方々を招いた基地内ツアーがありました。私はそこで通訳の仕事を初めて見て、専門的な用語に対しても堂々と通訳している姿に感激しました。

また、毎年行われる、スペシャルオリンピックのミーティングに参加する機会がありました。私は内容を聴きとろうとしたのですが、全く上手いかず悔しい思いをしました。

今回の体験を通して、通訳の仕事に魅力を感じましたが、私の今の英語力では程遠く、努力が足りないと感じさせられました。これからこの悔しさをばねに、残された塾生生活を有意義に過ごして行きたいと思えます。



黄金時代
一年 二番 梅木 教志
(うめき たかし)

私たちは三日間、カデナ基地広報局渉外部で職場体験研修をしました。一日目はBX視察に同行しましたが、ネイティブの英語はとても速くて聞き取るのが難しく、単語で書くのが精一杯でした。二日目は普久原部長さんと行動を共にし、基地外に出て沖縄の大手チェーン店を統括している部長さんと一緒にスペシャルオリンピックの会議に参加しました。三日目は主にファックスや電話応対をしました。特に言葉遣いには注意を払いました。

三日間を通して学んだことは、外部からお客様が来られたときは自分から立って自己紹介をすること、さらに英語を話すことに恥ずかしがらず積極的に会話をすることです。

仕事をするということは挨拶から始まり何をすることも時間厳守で自分から進んで仕事を探すことです。ここで得た体験をこれからの外語塾生活に生かしていきたいです。

